

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年9月9日 (2010.9.9)

【公表番号】特表2006-502229(P2006-502229A)

【公表日】平成18年1月19日 (2006.1.19)

【年通号数】公開・登録公報2006-003

【出願番号】特願2004-543576(P2004-543576)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/559 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/04 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

C 0 7 D 263/32 (2006.01)

C 1 2 N 9/99 (2006.01)

C 0 7 D 263/56 (2006.01)

C 0 7 D 271/10 (2006.01)

C 0 7 D 277/24 (2006.01)

C 0 7 D 277/64 (2006.01)

C 0 7 D 413/04 (2006.01)

C 0 7 D 417/04 (2006.01)

C 0 7 D 285/12 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 31/559

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 25/04

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 P 43/00 1 1 2

C 0 7 D 263/32

C 1 2 N 9/99

C 0 7 D 263/56

C 0 7 D 271/10

C 0 7 D 277/24

C 0 7 D 277/64

C 0 7 D 413/04

C 0 7 D 417/04

C 0 7 D 285/12 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年7月22日 (2010.7.22)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

以下の式：

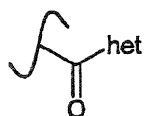
A - B - C

〔式中、A は阻害サブユニットであり、B は連結サブユニットであり、C は結合サブユニ

ットであり、

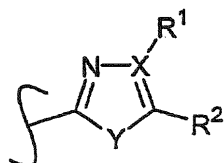
阻害サブユニットAは、脂肪酸アミド加水分解酵素を阻害するための - ケト複素環ファーマコフォアであって、式：

【化1】



{ 式中、「het」は以下の構造：

【化2】

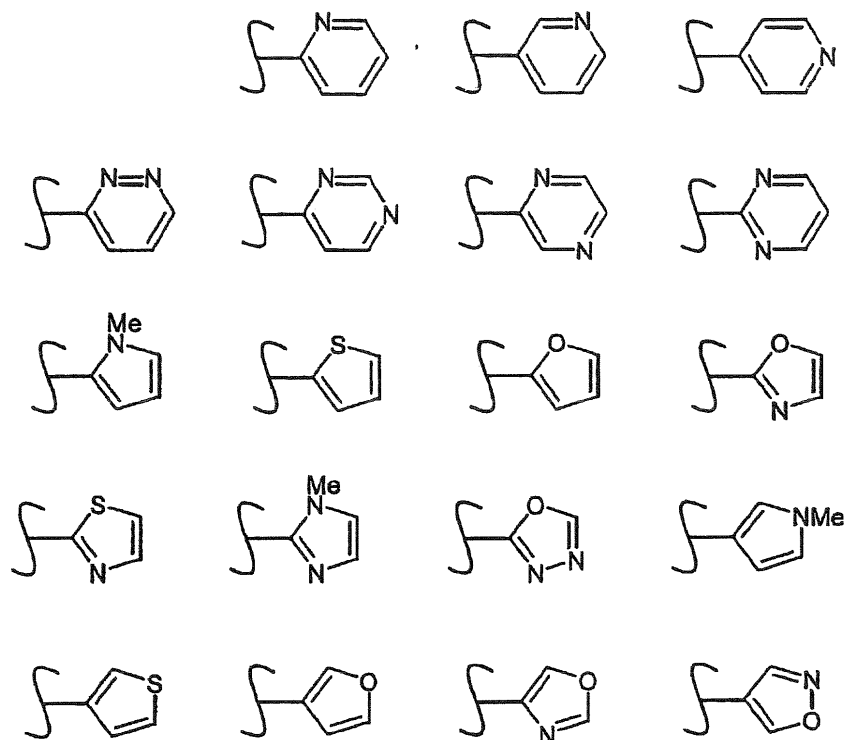


(式中、Xは、炭素および窒素からなる群から選択され、

Yは、酸素および硫黄からなる群から選択され、

R¹ および R² は、それぞれ独立に、水素またはヘテロ芳香環であるが、ただし、R¹ および R² の少なくとも一つが、ヘテロ芳香族環であり、Xが窒素である場合には、R¹ は存在せず、該ヘテロ芳香族環が、以下の構造：

【化3】



のいずれかによって表される）である}

によって表される - ケト複素環ファーマコフォアであり、

連結サブユニットBは阻害サブユニットAと結合サブユニットCを連結するための鎖であって、かつ結合サブユニットCを脂肪酸アミド加水分解酵素の結合領域に結合させることを可能にするための鎖であり、該鎖は炭素、酸素、硫黄および窒素からなる群から選択される3～9原子の直鎖状の骨格を有し、該連結骨格は第1の末端と第2の末端を有し、

該第 1 の末端は A の - ケト基に共有結合し、
 ただし、前記鎖の第 1 の末端が阻害サブユニット A の - ケト基に対して - 炭素である
 場合には、- 炭素は、任意選択的に、フルオロ、クロロ、ヒドロキシル、アルコキシ、
 トリフルオロメチルおよびアルキルからなる群から選択される置換基でモノ - 官能基化ま
 たはビス - 官能基化されており、

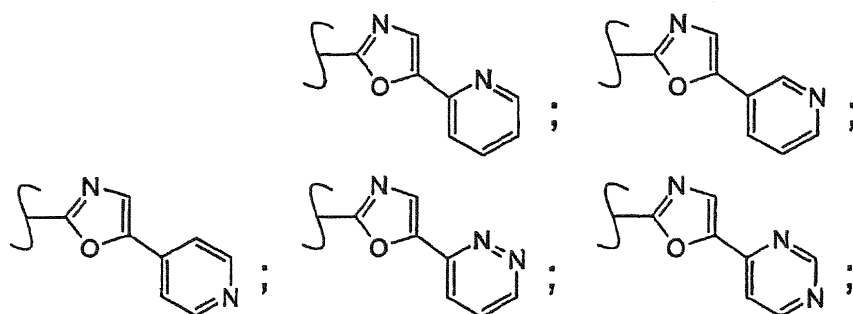
結合サブユニット C は、- 不飽和を有する - 結合含有基であって、アリール、アル
 ケニル、アルキニルおよび 1 つ以上のヘテロ原子を有してもよく、有さなくても良い少な
 くとも 1 つの不飽和を有する環構造からなる群から選択され、結合サブユニット C は連結
 サブユニット B の第 2 の末端に共有結合されており、前記 - 結合含有基内の - 不飽和
 は、互いに連続して結合される 3 以上で 9 以下の原子の配列で A の - ケト基から分離さ
 れている。】

によって表される化合物を有効成分とする脂肪酸アミド加水分解酵素の阻害剤。

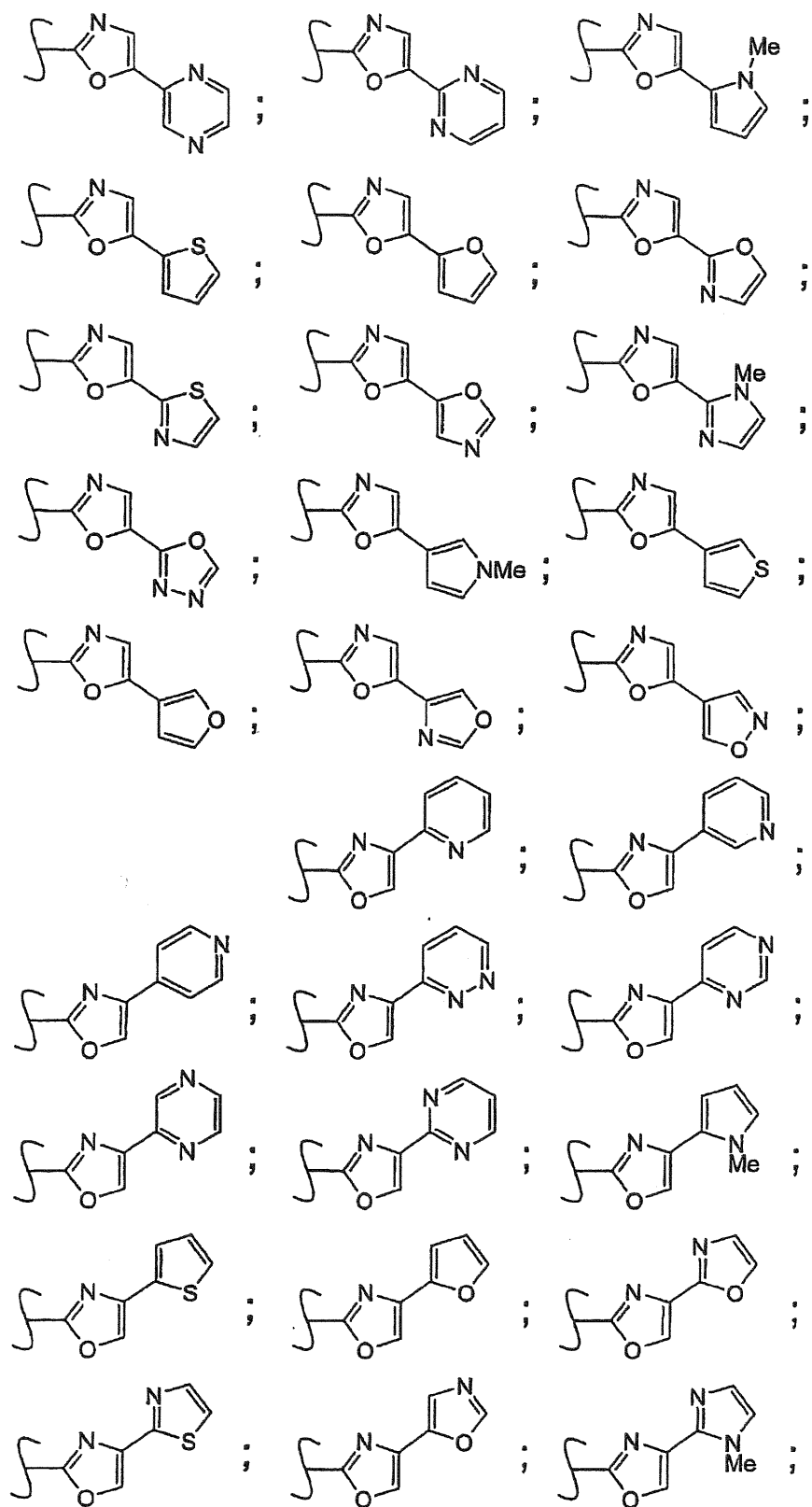
【請求項 2】

前記式 A - B - C の化合物の - ケト複素環ファーマコフォアの「h e t」が、以下の
 群：

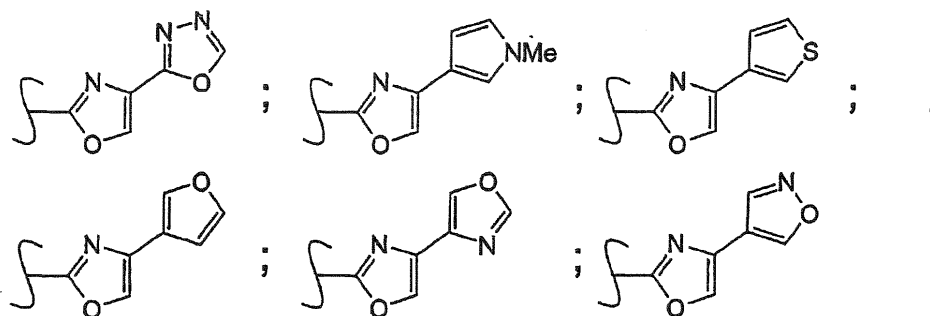
【化 4 A】



【化 4 B】



【化 4 C】

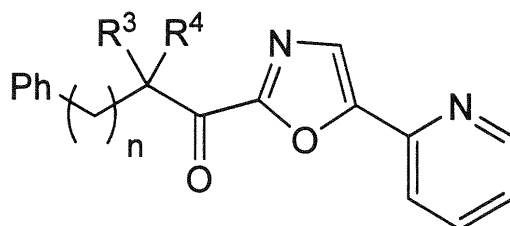


から選択される請求項 1 に記載の脂肪酸アミド加水分解酵素阻害剤。

【請求項 3】

前記式 A - B - C の化合物が、以下の構造：

【化 5】



(式中、 R^3 および R^4 が、独立して、水素、フルオロ、クロロ、ヒドロキシル、アルコキシ、トリフルオロメチルおよびアルキルからなる群から選択され、
「 n 」が 2 ~ 8 の整数である)

によって表される請求項 2 に記載の脂肪酸アミド加水分解酵素阻害剤。

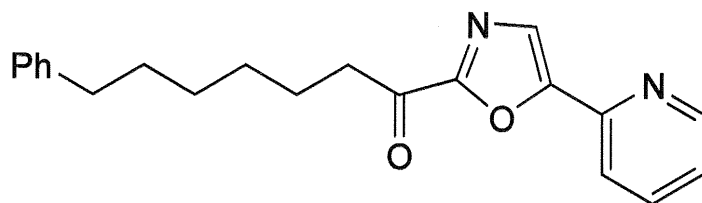
【請求項 4】

前記 C が、アリール環である請求項 1 に記載の脂肪酸アミド加水分解酵素阻害剤。

【請求項 5】

前記 R^3 および R^4 が水素であり、前記 n が 5 である、下記式

【化 6】



で表される請求項 3 に記載の脂肪酸アミド加水分解酵素阻害剤。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0008

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0008】

連結サブユニット B は阻害サブユニット A と結合サブユニット C を連結するための鎖であって、かつ結合サブユニット C を脂肪酸アミド加水分解酵素の結合領域に結合させることを可能にすると同時に阻害サブユニット A が脂肪酸アミド加水分解酵素を阻害するための鎖である。鎖は炭素、酸素、硫黄および窒素からなる群から選択される 3 ~ 9 原子の直鎖状の骨格を有し、連結骨格は第 1 の末端と第 2 の末端を有し、第 1 の末端は A の - ケト基に共有結合している。ただし、上記鎖の第 1 の末端が阻害サブユニット A の - ケト基に対して - 炭素である場合には、 - 炭素は、任意選択的に、フルオロ、クロロ、ヒドロキシル、アルコキシ、トリフルオロメチルおよびアルキルからなる群から選択される置換基でモノ - 官能基化またはビス - 官能基化されている。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

結合サブユニット C は、 - 不飽和を有する - 結合含有基である。結合サブユニット C は、アリール、アルケニル、アルキニル、および 1 つ以上のヘテロ原子を有してもよく有さなくてもよい少なくとも 1 つの不飽和を有する環構造からなる群から選択される。結合サブユニット C は、連結サブユニット B の第 2 の末端に共有結合されている。阻害サブユニット A が脂肪酸アミド加水分解酵素を阻害すると同時に、 - 結合含有基内の - 不飽和は、 - 不飽和を脂肪酸アミド加水分解酵素の結合領域に結合させることを可能にするための直鎖状の骨格を含めて、互いに連続して結合される 3 以上で 9 以下の原子の配列で A の - ケト基から分離されている。ただし、C は、任意選択的に、C1 ~ C10 のアルキルである。